

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児高等学校 学校運営協議会（第1回）
- 2 開催日時 令和6年6月26日（水） 14:00～16:00
- 3 開催場所 可児高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	藤原 美雪	(可児高校PTA会長)
副会長	吉田 竹虎	(可児市立西可児中学校長)
委員	市原 崇光	(可児市商工会議所副会頭)
	安藤 麻記子	(可児市役所産業振興課主任)
	菰田 さよ	(可児市国際交流協会) (欠席)
	杉浦 浩子	(岐阜医療科学大学看護学部学科長)
	野村 次郎	(総合型地域スポーツクラブFCV理事長)
	吉田 孝尚	(坂戸地区自治会長)
	山口 伸行	(坂戸地区副自治会長)
学校側	川地 晃正	校長
	二村 文敏	教頭
	虫賀 則行	事務長
	内藤 崇	教務主任
	水谷 賢司	生徒指導主事
	山下由香理	進路指導主事
	日下部まみ	(記録係)
	田中 乃愛	(記録係)

5 会議の概要（協議事項）

- (1) 令和6年度 可児高校 学校教育方針と指導の重点等について（校長より説明）
- (2) 協議（可児高校の社会的役割とスクール・ミッションの策定について）

① 授業について（授業参観の感想等）

- 意見1：教員と生徒とのほどよい距離感が感じられ、よい関係性を見ることができた。また生徒の授業への参加の様子から、高校生の伸びやかさを感じた。
- 意見2：生徒全員が集中している姿やみんなが授業を作り上げるような一体感など、大学の講義とは異なる活発な姿勢がよかった。
- 意見3：生徒の様子として、朗らかでありながら、全体的に授業に集中している授業態度がよい。
- 意見4：生徒と教員の壁が感じられなかった。両者の関係性も良好に見える。やはり2・3

年生は慣れており、「授業」というイメージより、全員で時間や空間をつくっている印象だった。

意見5：双方向の授業が活発で、（本校卒業生の立場から）本当に可児高校なのかな？という昔からは考えられないような印象をもった。生徒同士が交流し、互いに話し合いをすることができる雰囲気がとてもよい。

意見6：生徒の表情は昨年に続いてよい。それだけでなく教員の表情や雰囲気もよりよくなっていると感じた。

② 可児高校の社会的役割とスクール・ミッションの策定について

意見1：中学校から高校進学を考える際に、子どもの多様性を踏まえ、進路や学習環境などの様々な子供の願いに対応することが求められている。探究的な活動・特別活動を中心として生徒が主体となって活躍する本校の生徒の姿を中学生にも発信してしてもらいたい。

意見2：広報活動等で好転の兆しが見られるが、志願者が定員を割り込んでいることについて、美濃加茂市からの入学者が少ないところを見ると、可児高校の良さが美濃加茂市まで伝わっていない現状があるのではないか。また小学校から私立への進学が増えていることから、中学校段階だけでなく小学校の保護者等へのアピールも必要ではないか。

意見3：探究学習を軸に生徒が主体となって地域課題の発見・解決に向けた取組みについて考えることを通して、将来、リーダーシップを発揮し、地元で活躍する礎となるような生徒を育成する学校にしてもらいたい。

意見4：大学では、リーダーシップがとれる学生や様々な環境の中で自分らしさを発揮することができる学生を求めている。生徒が本校での学びを通して、地域の魅力を感じることができるよう個性を伸ばしていくことが重要だと考える。

意見5：これまでのように進学校としての地位を維持していくことはもちろん、地域の魅力や課題を生徒が主体的に探究し、学ぶことができる学校にしていく必要があると考える。

意見6：中学校の保護者の中には、本校に進学すると「勉強が大変」、「ついていけない」というネガティブなイメージをもっている方もいる。新しい時代に対応する学校改革を通して、中学生や保護者に「可児高校で学べば成長できる」という安心感をもってもらえるよう、頑張ってもらいたい。

6 会議のまとめ

今年度の第1回学校運営協議会では、スクール・ミッションの策定に向けて、委員より本校の社会的役割について、様々な意見や提案が出された。これらを踏まえて、第2回の委員会では「スクール・ミッション（案）」を提示し、策定に向けて進めていく。